

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2017. 10. 6◆◆◆

\*\*\*\*\*

【 四国地方整備局 港湾空港部長 宮島 正悟 】

本年7月から港湾空港部長に就いております宮島と申します。どうぞよろしくお願  
いいたします。

四国地方での勤務は初めてですが、学生時代に友人たちと連れだってフェリーで宿  
毛に入り四国西部を旅したことがあり、それが四国との初めての直接の関わりでした。  
先日、出張の中で宿毛湾港のフェリー乗り場に立ち寄ることができ、四半世紀ぶり  
にかつての面影を感じて非常に懐かしく思いました。

高知県の愛媛県境にある「宿毛湾港」(すくもわんこう)は、週に21便のフェリー  
が運航されており、四国西南地域と九州との物流を担っています。四国全体で言えば、  
九州や本州と結ぶフェリーは週に574便もの本数が運行されており、RORO船とともに  
物流を支えているのです。

話は変わりますが、四国勤務になって八十八箇所巡りを始めました。鉄道に自転車  
を持ち込みゆっくりとした旅で、道中、それぞれの町の雰囲気や人柄、文化、歴史を  
感じて楽しんでいきます。地名の中には、慣れた読み方と違うものや漢字自体が難しい  
ものもありますが、徐々に習熟しつつあります。

「宿毛」も学生時代に「すくも」とは読みにくかったことを覚えています。また、  
古くから四国の玄関として発展した「撫養港」、恥ずかしながら、当初はなかなか  
「むやこう」とは読めませんでした。撫養港では、約12年にわたって進めてきた直轄  
海岸保全施設整備事業が、この9月にいよいよ完成を迎えることができました。関係  
された方々に感謝申し上げます。

さて、撫養港は、1番札所の霊山寺(りょうぜんじ)に向かう玄関でもあったとの  
こと。札所となっている各寺を巡っていると、自動車や大型バスを使ったお遍路さん  
が大半です。そのため、かつては当然だった「歩き遍路」があえて特別に分類されて  
いるようですが、思いのほか、欧米系と思われる方が白装束を身にまとって歩き遍路  
をされている姿も多く見かけます。インバウンドの増加をこんな形で感じることで  
き、非常に興味深く思います。

かつて、私の尊敬する方のお一人が、「最も強い者が生き残るのではない。生き残  
ることができるのは変化できる者である。」というダーウィンの言葉を、折に触れて  
引用されていました。四国には、全国に102港ある重要港湾のうち13港が、全国に808  
港ある地方港湾のうち135港が、それぞれあります。これら各港湾に求められる機能  
も、全国の物流の状況や背後地域の利用状況等々に応じて変わっていきます。時には  
変化を先導し、また時には変化を後ろで支えて、四国地方の発展に力を尽くしてい  
ります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

\*\*\*\*\*

水生生物調査に参加した東中筋小学校4年生が「中筋川新聞」を作成しました

【中村河川国道事務所】

河川愛護月間の一行事として、水生生物による簡易水質調査を、四万十川・中筋川において、四万十市内の小学生と一緒に調査を行いました。

水質調査は、水生生物による簡易水質調査とパックテストを使った簡易水質試験の2つの方法により実施し、水生生物による調査では、生徒達は網とバケツをもって川の中に入り、川底の石について水生生物や魚などを一生懸命捕まえていました。

また、パックテストによる試験では、色が変わった川の水と色見本の色とを真剣な表情で見比べていました。

調査の結果は、四万十川は「きれいな水」に、中筋川は「ややきれいな水」の評価となりました。

調査に参加した生徒からは、「川にはたくさんの水生生物が棲んでいてびっくりした。

川のきれいさを知ることができて勉強になった。もっと川がきれいになればいいなと思った。」などの感想をいただきました。

中筋川の水質調査に参加した東中筋小学校の4年生の生徒は、自発的に、調査結果や感想、川への想いを満載した「中筋川新聞」を作ってくれました。

事務所の玄関の掲示板に貼ったところ、職員や来客者も足を止め、食い入るように見ていました。

\*\*\*\*\*

平成29年度 四国企業防災戦略トップセミナーを開催しました

【企画部】

防災・復興の現場から～東日本大震災から学び取る～

開催日時：平成29年8月29日（火） 14:30～17:15

場所：高松シンボルタワー かがわ国際会議場

出席者：企業関係者 34社 67名、行政関係者 90名 計157名

主催：経済産業省 四国経済産業局、国土交通省 四国地方整備局、経済産業省 東北経済産業局

#### 【目的】

四国には、本社や工場を四国に持ち、海外や国内の特定分野においてトップシェアや世界レベルの特殊な技術を持つ企業が100社を超えるなど、全国に誇れるオンリーワン企業が多く存在します。一方で、これらの企業が、南海トラフ巨大地震などの大規模災害により被災した場合には、四国はもとより日本経済・世界経済へ多大な影響を及ぼすことが懸念されます。

本セミナーは、東日本大震災の被災現場の記録を通じて防災・減災対策を学ぶ機会、被災後の地域復興・経済活性化と企業の関わり等について情報提供を行い、四国企業の大規模災害への備えを充実して頂くことを目的に、平成26年度より開催しており、今回で4回目の開催となります。今回は、学識経験者、企業のトップの方よりご講演頂きました。

東日本大震災の教訓とは？～被災現場から伝える学び～

国立大学法人東北大学  
災害科学国際研究所 准教授 柴山明寛 氏 発言要旨

東日本大震災の概要と震災当時の状況と今の被災地に関して、仙台平野の多重防御によるまちづくり、多賀城市の企業による減災対策の取り組み、陸前高田市の防潮堤建設事例等を交えて情報提供いたします。また、防災・減災知識を学ぶ機会の提供や震災記録の保存に関する問題点と、東北大学災害科学国際研究所（以下「研究所」と称す）での取り組み事例をご紹介します。

東日本に行くと言波災害しか学べないのではないかとと思われる可能性は多々あると思うのですが、実はそれだけではありません。防災・減災に対する重要なこと、復旧・復興のこと、自然災害全般のこと、風水害に関しても、地震災害やその他の災害に関しても、避難所が開設された後の対応は同じなのです。

研究所の取り組みとして、岩手県、宮城県、福島県からモデル地域を選び、防災観光コンテンツを調査してきました。コンテンツは数多くあるものの整理がされていない等の実態を受け、「歴史・災害状況、防災知識、災害時の連携、防災まちづくり、公的機関の役割、地域コミュニティの重要性、産業復興」といった防災学習プログラムを体系化しました。その他、諸外国向けのコンテンツとして、防災用語集の作成や、諸外国の災害・防災文化を把握するためのコンテンツをウェブ上に公開しています。

研究所が提供する学びとして、各国の方々や企業の方々を誘致して防災講義を実施したり、ワークショップや人材育成も行っています。研究所で基礎知識を学んでから被災地に行って深く学んで頂く、または被災地へ行って学んで頂いたものを、研究所で復習することができますので、ぜひ来て頂ければと思います。

東日本大震災を乗り越えて ～三つの命を大切に～

有限会社オйкаワデニム  
前 代表取締役社長 及川秀子 氏 発言要旨

自社工場は命がけで避難してこられた150人の命を守り、民間避難所第1号として150人が生きていく避難所となりました。震災から4日目に、まず避難所内において1人1役で班編成を組みました。避難所の会長、副会長、通信長、医療長、食事班長、物資仕分班、子守班、薬班、衛生班と、とにかくいろいろな役割を持ってもらいました。その後、4月4日にオйкаワデニムは稼働を始め、7月24日に避難所の閉所式を終え、それぞれが仮設住宅へと移りました。

平成24年1月より、内閣府の中央防災会議の災害時の避難に関する専門調査会、津波防災に関するワークショップグループの検討委員の拝命を受けました。被災地の声を中央、国に届け、かつ減災に対し「減災だけではだめ。防災のことも教育に盛り込んで欲しい。」ということ話し、協議を重ねました。また、総務省、消防庁の津波避難対策推進マニュアル検討委員会に委員として参加しました。

いつか「復興」という大きな目標に向かうとき、一人でも多くの人材がいれば、できることも増えてくると考えました。ハローワークへ募集を出し、入ったその日から即正社員となり、もしこの先、前の会社が復旧したらいつやめて頂いても構わないこと、募集人員は無制限とすることを条件に募集を行いました。

震災を通じて、3つの命(いのち)を大切に生きるということを学びました。1つ目の命は「生命」、2つ目の命は「使命」です。避難生活や復旧・復興に向かった様子を忘れずに語り継いでいくことが、予測できない災害への備えとなり、世界中から頂いたご支援に対する恩返しになる。今の自分にできることを考えながら生きていく、これも「使命」という命だと思います。そして、3つ目の命、それはどんな時でも「一生懸命」頑張るといふ命。私たちが生きている今日は、あの波に吞まれ、犠牲になられた方々が精いっぱい生きてきた今日でもあるからです。

それぞれの基調講演で、東日本大震災の被災現場の記録を通じて防災・減災対策を学ぶ機会、被災後の地域復興・経済活性化と企業の関わり等について実体験を交えた大変貴重な話を伺うことができたセミナーとなりました。

\*\*\*\*\*

## 高松サンポート合同庁舎南館が完成しました

【営繕部】

平成26年12月から建設を進めていた高松サンポート合同庁舎南館が、本年9月末に完成しました。

南館には14の官署が入居します。これまで高松市内に点在していた行政機関を集約することにより、利用者の利便性向上、四国地方の広域防災拠点の強化、更には地域活性化が期待されます。

南館の完成後、来庁者用の駐車場は地上に設置しております。

### ○高松サンポート合同庁舎南館 概要

延べ面積：22,34平方メートル

階数：地上11階、地下1階、塔屋1階

構造：鉄骨造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造）

入居官署：人事院四国事務局、公正取引委員会事務総局近畿中国四国事務所四国支所四国管区警察局、四国行政評価支局、高松法務局（人権擁護部）、四国財務局、財務総合政策研究所四国研修支所、中国四国農政局香川県拠点、国土地理院四国地方測量部、四国運輸局、高松地方气象台、中国四国地方環境事務所高松事務所、自衛隊香川地方協力本部、中国四国防衛局高松防衛事務所

\*\*\*\*\*

### 四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

### 四国地方整備局Facebook

<https://www.facebook.com/shikokuchisei/>

\*\*\*\*\*

自治体担当者様におかれましては、首長ご本人への転送とあわせて、職員の方への周知もお願いいたします。

「いきいき四国通信」に関するご意見、配信中止・配信先変更のご希望等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

国土交通省 四国地方整備局 企画部 「いきいき四国通信」事務局

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>

\*\*\*\*\*